

## 第 21 回信州エコ大賞 受賞者

### (1) 信州エコ大賞

〔伊那谷自然友の会（飯田市）〕

「伊那谷自然友の会」は 1985 年 11 月に発足し、南・中央の 2 つのアルプス、天竜川の豊かな自然に囲まれた伊那谷を対象にして、自然科学に関する調査・研究を主な活動とし、その成果を広く公開し、地域の教育と文化の発展に貢献している。会の事務局を飯田市美術博物館内に置き、小・中学校、高等学校の理科の教員、自然を愛する市民、博物館の学芸員など約 900 人が会員として登録され県外者も 2 割を超えている。

会員の調査、研究活動の発表と交流の場である会報「伊那谷の自然」を隔月で発行し昨年末には 200 号の節目を迎えた。

一般市民向けに、伊那谷の自然を学習する講座や体験する見学会を積極的に企画し、昨年度は地質・生物などの講座を飯田市美術博物館と 12 回共催し 574 人が参加した。また、自然見学会も伊那谷の各地で 17 回開催し 257 人が参加している。

1991 年には「三六災害」30 周年を機に「伊那谷の土石流と満水」を、1997 年には天竜川上流工事事務所発足 50 周年の冊子「伊那谷の自然 I II III」をそれぞれ編集・発行し、地域の学術の振興と防災に大きな役割をはたしている。1994 年にはムトス飯田賞を受賞している。

〔有賀 宏道 軽井沢中部小学校 教諭（小諸市）〕

現在、軽井沢町立中部小学校の教諭である有賀宏道氏は、1990 年より今日まで赴任先の小・中学校で理科教育、環境教育の指導に関わり、教え子たちの研究発表の作品が全国大会で 53 回、全国大会に繋がる県大会で 43 回、ながのエコグッズコンテストで 14 回（当協会主催）表彰を受けている。

学級単位では、長野市立古牧小学校 5 年 2 組の担任として指導した学級共同研究「メダカの産卵と発生の研究」が毎日新聞社主催の科学コンクールで文部大臣奨励賞を受賞（1991 年）、学年単位では、佐久市立東小学校 6 学年共同研究「学校周辺の河川の調査や太陽光発電から未来を考える」が全国小学校環境学習コンテストで最優秀学校奨励賞を受賞（2012 年）などがある。3 月に開催された「軽井沢こども G20 サミット」では、軽井沢中部小学校の教え子たちが、「キッズ ISO14000 プログラム」で環境大臣賞を受賞した研究成果などを発表している。

自主性を尊重してこどもの科学への興味を引き出す指導方法や学級、学年単位での共同研究・発表などにより、こどもたちの自然や環境に対する意識を高め、その後の進路にも影響を与えている。こうした理科研究の成果は、保護者や地域の住民の環境意識の向上にも繋がっている。

### (2) 奨励賞

〔株式会社キラヤ（飯田市）〕

㈱キラヤは 1951 年に設立され、飯田・下伊那地域に現在 9 店舗を展開している食品スーパーである。初代社長の環境への強い思いから、店内で発生するレジ袋や食品トレー、牛乳パックなどの削減、生ゴミの再資源化などの環境保全活動に積極的に取り組んでいる。

特にレジ袋削減については 1985 年頃からいち早く取り組みを開始し、地域の市民団体の活動も相まって、南信州地域のレジ袋削減の機運を高める端緒となり、現在の南信州地域のマイバッグ持参の意識定着に貢献している。同社店舗では 92%前後の高い「マイバッグ持参率」の成果をあげている。

店内で発生する生ゴミは全て、再利用して堆肥にするか、メタンガス発酵による発電（外部委託）で処理している。納品時のノー段ボール化、店内照明の LED 化なども推進している。

今後は、食品ロスを発生させないために受発注システムの開発を行い食品廃棄物の更なる削減を目指す予定である。